

(別紙様式-2の別添)

平成21年度

農業農村整備優良地区コンクール

農業生産基盤整備部門

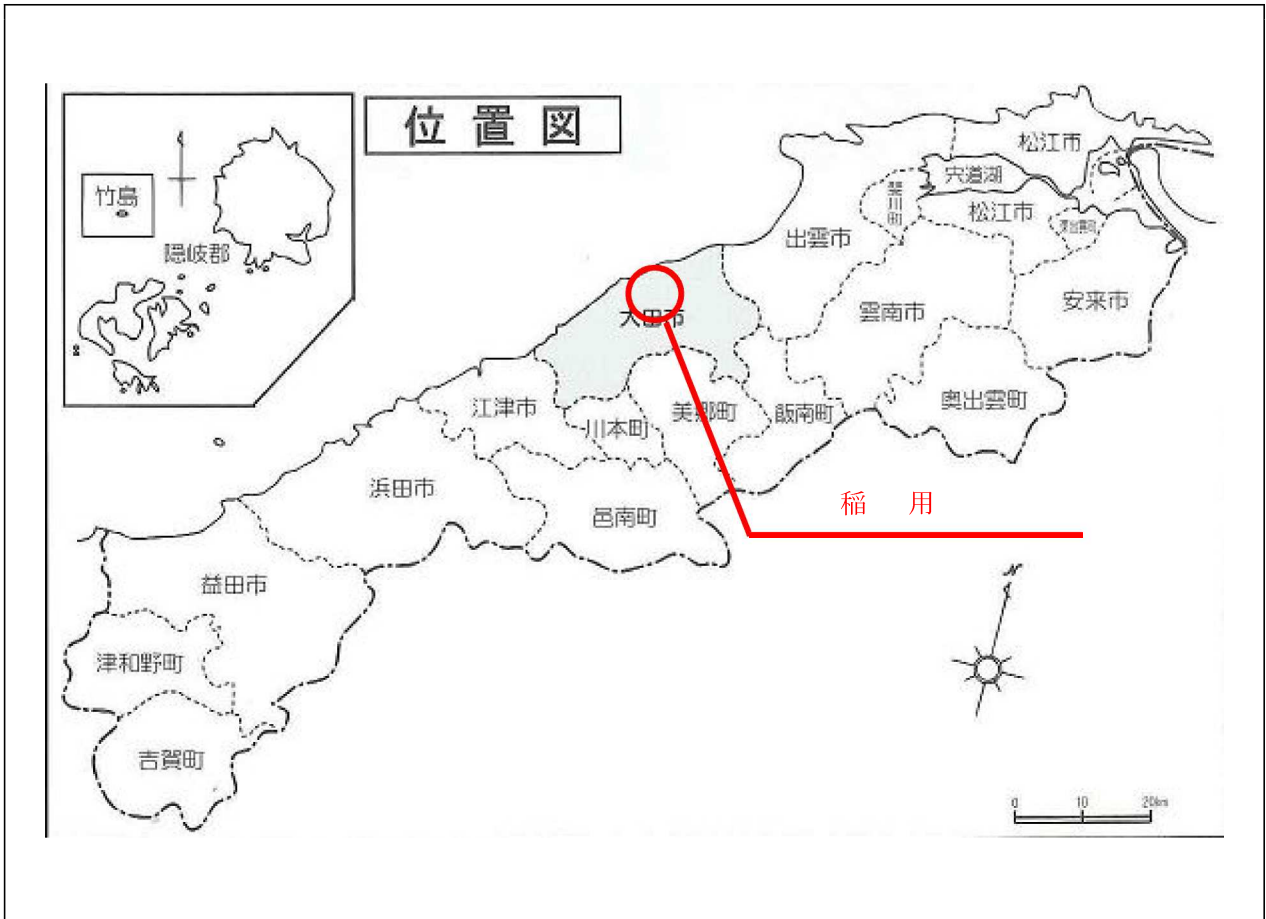
— 調 書 —

都道府県名： 島 根 県

ふ り が な 参加団体名： しずまがわえんがんとちかいりようく 静岡川沿岸土地改良区

ふ り が な 地区名： いなもち 稲用

【位置図】



1. 地域の概要

大田市は、島根県の東西の中央部に位置し、面積約440km²、人口約4万人の町である。北部は日本海に面し、南部から急峻な中国山地が迫っているため山林原野が多く、耕地面積は4656haで市の全体面積の10%ほどである。

農業経営は、ほとんどが水稻を基幹作物として肉用牛、野菜、施設園芸と合わせた複合経営であるが、大型の畜産経営農家が多いのが特徴であり、県内有数の畜産基地である。

また、南東部には、大山隠岐国立公園に属する三瓶山があり、中央部には平成19年7月2日に世界遺産登録がされた石見銀山遺跡がある。同遺跡が世界遺産に登録されて以来、年間100万人もの観光客が訪れるようになり、地域産業に与える影響は大きいものがある。

最初に銀鉱脈が発見されてから400年の歴史を持つ石見銀山は、最盛期には、工夫を中心に最大5万人もの人が生活しており、その食料を支えていたのは、間違いなくこの地域の農地と農民である。

古くから米づくりが盛んであったこの地域は、弥生時代に古代国家が自ら管理する農場「屯倉^{みやげ}」がおかれ、その「屯倉」を管理するものを「稲置^{いなぎ}」（役職名）と呼んでいた。稲用地区の担い手である農事組合法人「いなぎ」はここから名付けられたものである。

あわせて、鉱工業では島根県の特産品である石州瓦の産地でもあり、古くからの技術が伝承され受け継がれており、石見銀山も含め歴史的にみても造詣の深い地域である。

2. 地区名及び事業の概要等

ふりがな 地区名		いなもち 稲用			
ふりがな 参加団体名		しずまがわえんがんとちかいりようく 団体名：静岡川沿岸土地改良区 代表者：坂根昭一		所在地	島根県大田市長久町
事業 の 概 要	事業名	経営体育成基盤整備事業		着工年度：12年度	完了年度：17年度
	主な工種	区画整理工事 42.5ha 暗渠排水 40.2ha 防火水槽 2基			
	受益面積	42.5ha	受益戸数	78戸	
	標準区画規模 : 事業実施前 未整備 → 完了後 30a 1ha以上の区画合計面積 : 事業実施前 0ha → 完了後 0ha				

3. 推薦理由

<p>当地区の農地は、区画が不整形かつ狭小であり、用排水路の老朽化、排水不良等営農に支障をきたす状況であり、農業従事者においても60a程度の零細農家が多く高齢化が進み営農意欲の薄れつつある状況にあった。</p> <p>このため、平成12年より区画の整備、用排水路・道路の整備による生産性の向上、省力化を図るため、ほ場整備事業を実施した。</p> <p>ほ場整備を契機に地域の若手による法人化プロジェクトが組織され、水稻のみに依存した経営から「攻めの農業」「儲かる農業経営」をめざし、平成19年に1集落1農場方式で関係農家78戸のうち51戸（65%）からなる農事組合法人「いなぎ」を設立した。</p> <p>当法人は、受益面積の47%にあたる20haを集積し、大型機械化体系の導入により省力・低コスト生産を行っている。</p> <p>また、「水稻からの脱却」の考えから今後の経営の柱となる収益性の高い園芸品目への取組を行っており、キャベツや「JA石見銀山」のブランドである千両（花卉）の導入、西条柿、赤梨の植栽を導入している。</p> <p>特に赤梨については、オーナー制度への取組と同時に、世界遺産「石見銀山」への観光客の取り込みによる観光農園を目指している。</p> <p>法人の組織体制は2室2部制（総務政策室、地域開発室、営農生産部、女性部）をとっており明確な役割分担によって、経営の効率化を図っている。</p> <p>また、集落ぐるみで法人化したメリットを生かし、若年層を巻き込んだ役員体制を構築し経営への参加を図り、また作物ごとの責任者を決め年間を通じた技術指導を行うなど積極的な人材育成の取組も行っている。</p> <p>その他、非農家も含めた人材バンクによる地元雇用の創出と労働力の補完を行うと共に、自治会等と連携した美化保全活動、沿線の花壇づくりなど、地域の活性化を目指した活動を展開している。</p> <p>平成19年からは当土地改良区が主軸となり、「稲用地域資源保全隊」を立ち上げ、地域と連携し「農地・水・環境保全向上対策事業」による農業農村環境の保全に努めるなど、地域が一体となって行っている。</p>
--

4. 受益地区における農家及び担い手の状況

(1) 受益地区における農家数の状況

区 分	事業実施前	現 在
総農家数	78 戸 () 戸	75 戸 () 戸
うち専業農家数	4 戸 () 戸	2 戸 () 戸
うち兼業農家数	74 戸 () 戸	73 戸 () 戸
認定農業者	0人	0人
生産組織等(法人含む)	0組織	1 組織

【注】① () 内の戸数は、担い手農家数を記載願います。

②生産組織等の状況は別紙のとおり。

(2) 農用地の流動化状況

項 目	事業実施前	現 在	目 標
受益面積	46.3 ha	42.5 ha	
担い手等の利用集積面積	ha	19.9 ha	25.4 ha
①利用権設定面積	ha	19.9 ha	25.4 ha
②受託面積	ha	ha	ha

5. 農業経営状況 (※記入欄が不足する場合には追加して記載願います。)

区分 作物名	事業実施前 (10a 当たり)			現 在 (10a 当たり)		
	労働時間	反 収	生産費	労働時間	反 収	生産費
水稲	52.01	480kg	156,002	12.05	500kg	80,041
大豆	49.9	135kg	237,315	5.4	203kg	49,074
キャベツ				134.5	3000kg	381,222

区分 作物名	作 付 面 積 の 推 移					
	事業実施前		現 在		目 標	
水稲	38.2	ha (ha)	32.9	ha (9.7 ha)	32.9	ha (14.4ha)
大豆	0.5	ha (ha)	5.3	ha (5.3 ha)	5.3	ha (5.3 ha)
キャベツ		ha (ha)	2.0	ha (2.0 ha)	2.0	ha (2.0 ha)
千両		ha (ha)	0.5	ha (0.5 ha)	0.5	ha (0.5 ha)
柿		ha (ha)	2.0	ha (2.0 ha)	2.0	ha (2.0 ha)
赤梨		ha (ha)	1.2	ha (1.2 ha)	1.2	ha (1.2 ha)
計	38.7	ha (0ha)	43.9	ha (20.7ha)	43.9	ha (25.4ha)
土地利用率	100	%	103	%	103	%

※上記表の (ha) には、担い手農家等の作付面積を記載願います。

6. 営農推進の状況

(1) 栽培技術関係

本地区は、「いなぎ」が担い手となり次のような特色のある栽培を行っている。

1. 水稲

「いなぎ」では、水稲に係る経費の削減をはかるため、乾燥機は保有せず、JAの乾燥機を活用することとし、作業性をよくするため、8.8haの水田ではコシヒカリ1品種のみを作付している。このほか古代米を天日干しで、契約栽培しており古代米は黒色米で、ポリフェノールを多く含み健康志向の高まりから人気が出ており、コシヒカリの2倍程度の価格で販売されている。

あわせて、ラジコンヘリをつかった空中散布による防除を実施することにより散布効率を高め、通常の防除よりも農薬の散布量の軽減を図っている。

2. キャベツ

約0.9haで冬春キャベツを栽培している。運搬車を改良した独自の作業車を作り、防除、収穫などに利用している。区画が大きいので作業車の能力が十分発揮でき、営農の省力化につながっている。

3. 果樹（赤梨、西条柿）

果樹の導入場所に当たっては、均平区が概ね1.0ha以上とれる圃区を選定することにより作業性が向上し、収穫や除草、防除等の労働時間が軽減されている。

また、団地化したことにより、防虫ネットを張ることが可能となり、袋がけ作業を省略でき、労働力の省力化が図られている。

4. 千両

50aのほ場に11棟のハウスを建てて栽培している。千両は市場取引期間が極めて短いため短期間で収穫する必要があるが、フラットなほ場に11棟が並んでいるため各ほ場の条件は全て同じで、安定した品質のものが一斉に収穫できることが期待されている。

(2) 転作関係の状況

①整備後の転作の状況（現況）

- ・転作面積 10.0 ha（事業実施前の転作面積 0.5ha）

②転作作物名と作付面積

- ・作物名： 大豆 （5.3 ha）

③新規作物等導入状況

- ・作物名： 西条柿（2.0 ha） キャベツ（1.0 ha）
- ・作物名： 赤梨（1.2 ha）
- ・作物名： 千両（0.5 ha）

④転作や新規作物の導入にあたって、特にPRすること。

本地区では、「攻めの農業・もうかる農業」をめざし、ほ場整備事業区域では全国的にも珍しい千両を栽培し、京阪神方面へ出荷して高い評価を得ている。

また、赤梨については、石見銀山遺跡の観光客をターゲットにした観光農園や「梨オーナー」を目指し、柿については、青果販売にあわせ「あわせ柿」や「あんぼ柿」などの加工販売も始めている。

(3) 農産物の加工、流通、販売などに向けた取り組み

本地区で栽培している大豆については、食品加工会社（豆腐加工）との契約栽培を行っており、収穫した大豆については、すべて加工会社が買い取る契約としている。

また柿については、青果販売のほかに収量の35%分は、あわせ柿とあんぼ柿に加工し、付加価値をつけることにより、直販とあわせ、ネット販売を計画している。

この柿は、かつては「いなもち柿」として江戸時代からこの地の特産として有名であり、「いなもち柿」復活へ向けた広島等への試食宣伝活動等を積極的に取り組んでいる。

赤梨については、将来的に石見銀山遺跡等への観光客をターゲットにした観光農園を目指すと同時に、地元のファミリーを対象としたオーナー制度を計画している。

7. 環境に配慮した取り組み

平成19年から土地改良区が中心となり「稲用地域資源保全隊」を立ち上げ、地域自治会、小学校保護者会等、地域住民が一体となって「農地・水・環境保全向上対策事業」により、花壇の植栽や草取り、沿線道路のごみ拾いなどの美化活動を通じて農業農村環境の保全や地域の活性化に取り組んでいる。

また、平成20年度に土地改良区の呼びかけにより、地域の土地改良施設の役割や地域資源の発見及びそれを守ることの大切さの啓発を目的に「水土里の路ウォーキング」を開催した。

8. その他事業実施の効果による新たな取り組み

①余剰労働力の活用方法について

女性部による商品開発や加工品開発に力を入れており、あんぼ柿を手始めに取組を行っている。

②新たな雇用の場の創出

事業完了の平成17年度に、まず組合員とその家族を中心に「人材バンク制度」を導入した。人材バンクは、まず対象者にアンケート調査を行い、「やってみたい作業」、「出役できる時期」等の希望を聞き取り、その結果を実際の営農作業スケジュールにあてはめ登録・管理するものである。これにより地域に新たな雇用の場を創出すると同時に、安定した労働力の確保が可能となり、作業計画が立てやすくなった。

初年度の登録者数は44名ほどであったが、次年度からは、「活気あふれる地域の創造」の思いからこの輪を広げ組合員の家族だけでなく、本地域在住の非農家の女性も対象に含め、2次募集をしたところ20名以上の新規登録があった。このことは、本制度が、地域に強く支持されていることを表している。

本制度では、時給を作業の種類・時期にかかわらず固定していることにより特別な技術を必要としない作業でも安定した収入が見込めることが、非農家の登録につながっていると思われる。

今後は、本制度により、作業が集中する時期を対象に地域外にも労働力をもとめて行きたい。

9. 行政や関係者が「事業計画、施工、利活用など」において苦労した点

【静岡川沿岸土地改良区】

本事業においては、ほ場整備が従来の基盤だけの整備から担い手の育成を目的とした事業にステップアップしていく過渡期であったことから、当改良区においても、工事に関する班と、担い手への農地集積に関する班をそれぞれ立ち上げ、工事の円滑な進行のための調整と同時に、計画どおり農地が担い手に集積されるよう努力した。

【県NN担当】

本地区は、比較的平坦地であったことから、将来の営農規模拡大による更なる大区画化に対応できるよう区画割に配慮した。

また、暗渠排水工においても地下水を確実に低下させるため、補助暗渠を画一的な施工ではなく、現地にあわせ設置するなどきめ細やかな施工をした。

【県農業普及担当】

「いなぎ」は、水稻に依存する農業から脱却し、赤梨、西条柿、千両、キャベツなどの園芸品目に比重を置く「攻めの農業」を目指して平成19年1月に法人化し、平成19年1月に特定農業法人として登録した。

しかし構成員に園芸の栽培経験者が乏しく技術的な集積がなかったため、技術指導を重点的に行い技術の向上を支援してきた。また市、JAと協力し定期的に支援会議を設け、営農上の課題や機械・施設整備の検討等を行い、事業導入等についてアドバイスをを行うなど経営の安定化を支援してきた。

10. 周辺地域への波及効果及び将来の展望

1) 周辺地域への波及効果

「いなぎ」の設立によって、地域の担い手の確保に向けた取組や人材バンク制度による非農家も含めた地域住民を広く活用することによる就業の場づくり・労働補完、自治会との連携した美化保全活動・沿線の花壇づくり等の環境整備など、地域の活性化を目指した活動を展開している。

このため、地域農業の担い手だけではなく、雇用の場や集落機能を補完する面からも地域社会への影響は計り知れないものがある。

また、本地区が完了した平成17年度を新規とする池田地区経営体育成基盤整備事業が、同市内で採択となった。

これは、稲用地区の用水のパイプライン化など省力化農業への取り組みや法人担い手の設立による「儲かる農業」の実績が、公共事業の減少による新たな職種への転換を模索していた地元の建設業者の目に映り、企業参入によるほ場整備の気運が高まったものであり、稲用地区の波及効果は極めて大きいものである。

2) 将来展望

「攻めの農業」を旗印に掲げ「儲かる農業」を目標に、法人が中心となり、水稻からの脱却を図り、農業者だけでなく地域住民とともに、地域に根差した、地域のための農業を展開していく。

(地 域)

土地利用型作物の継続生産を行いつつ、土地の高度利用も図り、更に計画的に収益性の高い新規作物の導入を図る。

人材バンクの整備を進め、広く雇用の場を提供し、営農活動に参加することによる生き生きとしたライフワークと健康的な環境づくりを創出する。

(自 立)

赤梨のオーナー制度導入を機に、当地域でのユーザーの獲得、またリピーター受入れ施設の整備を図るとともに女性の感性をいかした生産と販売を結びつけるシステムを構築し、農業の魅力づくりに深くかかわってもらえる人材がより多く参画できるよう、広く情報発信を行う。

(連 携)

中期的には、市内の千両、西条柿生産組合と連携を図り、共選施設を新たに創ることにより、施設の有効利用と作業効率の向上を図り、共存共栄できる環境を整備する。

また、周辺地域の畜産農家等との業務提携により、生産コストの低減を図り、地域特性を生かした作物栽培と、収益向上のために協同販売体制を構築する。

1 1. その他参考事項

当該地区（地域）において過去に実施した事業名及び主要工種	なし
当該事業と一体的な整備を実施した事業名と主な工種及び効果	事業名：市道長久大坪線改良事業 H 1 3 年度～H 1 9 年度 主な工種：道路改良工事 L = 1 7 3 0 m 目的及び効果： 本地区内を通過する長久大坪線をほ場整備事業にあわせ改良したことにより、地域の一般車両交通だけでなく、農作業も安全に行えるようになった。 また、市道改良に必要な用地をほ場整備の換地により創設することによりほ場整備事業の地元負担金軽減にもつながった。

1 2. 表彰歴（今回の推薦地区が過去に農業関係の他の賞を受賞している場合その賞を記述。）

平成20年度優良担い手表彰（農林水産省経営局長賞）
平成19年度農地集団化優良表彰地区（全国農地集団化協議会会長表彰）
平成19年度大豆作共励会優秀賞受賞（島根県知事賞（主席））